2026 全然堂歳時記・秋 【干柿】

柿を捥ぎ剥いて繋げて干しにけり
渋柿の一皮剥けて干されある
古釘に柿の裸を吊しけり
串刺しの団子の如く柿を干す
渋柿の皮も近くに干されある
干柿に今日の日当り風当り
干柿や遠き西日に照らされて
吊し柿まだ生柿といふ硬さ
柿干せば日々に色濃く縮むなり
干柿に再び皮の如きもの

20句

粉を吹いて来れば霜柿とも呼ばれ
干柿は軒に熟柿は枝にかな
干柿に軒を貸したる母屋かな
古家の縁側長し吊し柿
縁側の積木ままごと吊し柿
柿簾一段外す食後かな
干柿に少し離れて唐辛子
星空に干されて柿の赤裸
干柿はほしがきれいな夜に干す
吊し柿の連なるままを送りくれし

2026年11月14日発　10行2段12ポ　桐10

2026 全然堂歳時記・秋 【干柿】 20句

柿を捥ぎ剥いて繋げて干し連ね
渋柿の一皮剥けて干されある
古釘に柿の裸を吊しけり
串刺しの団子の如く柿を干す
渋柿の皮も近くに干されある
干柿に今日の日当り風当り
干柿に西日も淡くなりしかな
吊し柿まだ生柿といふ硬さ
柿干せば日々に色濃く縮むなり
干柿に再び皮の如きもの
粉を吹いて来れば霜柿とも呼ばれ
干柿は軒に熟柿は枝にかな
干柿に軒を貸したる母屋かな
古家の縁側長し吊し柿
縁側の積木ままごと吊し柿
柿簾一段外す夕餉かな
干柿はほしがきれいな夜に干す
吊し柿の連なるままを送りくれし
渋柿の干さるるごとき心もち
干柿は甘くて重し魂も

2026 全然堂歳時記・秋 【干柿】 20句

2026年11月14日発　10行2段12ポ　桐10

柿を捥ぎ剥いて繋げて干して食ふ
渋柿の一皮剥けて干されある
古釘に柿の裸を吊しけり
串刺しの玉の如きを柿簾
渋柿の皮も近くに干されある
干柿に今日の日当り風当り
干柿に西日も淡くなりしかな
吊し柿まだ生柿といふ硬さ
柿干せば日々に色濃く縮むなり
干柿に再び皮の如きもの
粉を吹いて来れば霜柿とも呼ばれ
干柿は軒に熟柿は枝にかな
干柿に軒を貸したる母屋かな
縁側の積木ままごと吊し柿
柿簾一段外す夕餉かな
干柿はほしがきれいな夜に干す
吊し柿の連なるままを送りくれし
渋柿の干さるるごとき心もち
干柿を送る新茶のお返しに
干柿は甘くて重し魂も

2026 全然堂歳時記・秋 【干柿】

20句

柿を捥ぎ剥いて繋げて干して食ふ
食べられるまでの眺めや柿簾
古釘に柿の裸を吊しおく
日を浴びて玉の如きを柿簾
干柿の皮も近くに干されある
干柿を照らす西日の既になし
吊し柿まだ生柿といふ硬さ
干柿の日々に色濃く縮むなり
干柿に再び皮の如きもの
粉が吹いて霜柿といふ名前かな
干柿の内なる渋の行方かな
干柿は軒に熟柿は枝にかな
干柿に軒を貸したる母屋かな
縁側の積木ままごと吊し柿
夕食に一段外す柿簾
干柿はほしがきれいな夜に干す
干柿の連なるままを送りくれし
干柿を送る新茶のお返しに
2干鮭は辛く干柿は甘く
干柿は甘くて重し魂も

【干柿】

20句

2026年11月7日発　10行2段12ポ　桐10

柿を捥ぎ剥いて繋げて干して食ふ
食べられるまでの眺めや柿簾
古釘に柿の裸を吊しおく
剥きたての玉の如きを柿簾
干柿のまだ生柿といふ硬さ
干柿の皮も近くに干されある
干柿を照らす西日の既になし
干柿の日々に色濃く縮むなり
干柿に再び皮の如きもの
粉を噴けば霜柿といふ名前あり
干柿の内なる渋の行方かな
干柿は軒に熟柿は枝にかな
干柿に軒を貸したる母屋かな
縁側の積木ままごと吊し柿
夕食に一段外す柿簾
干柿はほしがきれいな夜に干す
干柿の連なるままを送りくれし
干柿を送る新茶のお返しに
2干鮭は辛く干柿は甘く
干柿は甘くて重し魂も